

# 佐渡米通信

# こめへる

2023年 1月号

発行日:2023年1月

編集人:佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)  
jasadotinoubu20@dune.ocn.ne.jp

皆様には平素より格別のご愛顧を  
いただき厚く御礼申し上げます  
本年も変わらぬご支援を賜りますよう  
心よりお願い申し上げます

JA佐渡職員一同

## 水稲作柄検討会開催

令和4年産コシヒカリの1等米比率は80.6%となりました。JA佐渡管内の地区別の等級比率と格落原因の確認が行われました。1等米比率90%以上を目指して準備を行っていきます。



格落原因について説明をする職員

## おいしい佐渡米コンテスト開催

11月15日に「おいしい佐渡米コンテスト」が開催されました。本コンテストは生産者のモチベーションと品質の向上を目的とし、島内の観光業や飲食業、専門学校生ら約30人の審査員によって食味官能審査が行われました。

島内42名の生産者から応募があり、事前選考として機器による成分分析を行い、上位の3品で選考を行いました。特別審査員としてごはんソムリエ(日本炊飯協会)のたにりりさんを招き、審査と講評を頂きました。たにさんより「佐渡米のおいしさを改めて感じるいい機会になった」とのお話を頂きました。表彰式は、後日行われます。



佐渡産コシヒカリの官能審査をする様子



特別審査員たにさんより講評を頂く様子

## 佐渡の米農家さんにインタビュー!!

両津地区の片野尾集落にある「片野尾とき舞株式会社」常務取締役の三國豊さん(77歳)にインタビューをしてきました。

片野尾集落は佐渡市の東部に位置しており、日本最後の朱鷺の生息地で半農半漁の小さな集落です。この集落にある田んぼは全て棚田で、湧水が豊富な地域のため上質なお米が出来る環境に恵まれているそうです。



朱鷺などの数多くの生きものが生息している階段状に続く棚田

「片野尾とき舞株式会社」は、集落の高齢化に伴う耕作放棄地の拡大を未然に防ぐために設立されました。農業を持続可能にするために機械の共同化、農薬・肥料の経費の縮減、付加価値を付けた米の販売先確保、新規就農者の受け入れ活動などに取り組んでいます。これまで、3人の若者が新規就農し三國さんから技術指導などが伝授され佐渡で頑張っているそうです。

同社の収益は、関東圏に販売網のあるパルシステム連合会への直接販売、肥料・農薬の共同購入で確保しています。国産トキの最後の生息地であったこともあり、今日も野生の朱鷺との共生を目指した環境にやさしい米づくりに取り組み続けられています。また、テレビのイベントがキッカケとなり、全国から有志のボランティアが毎年草刈りなど手伝いに来島されることを嬉しそうに話されていました。



日本海の青い海を見渡せる棚田と三國さん



パルシステム提携圃場の看板



両津地区 片野尾集落

## インボイス制度の準備

令和5年10月1日より、消費税の新しいルールとして「適格請求書保存方式(インボイス制度)」が導入されます。生産者への周知をはじめ、事業内容や取扱品目によって金額に関する記載事項や義務について整理し適切な対応に向けて準備を進めております。



広報紙「JA佐渡」に掲載した一部内容

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。  
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO